

## 均給水量(リットル)について。

答 当町の平成22年度上半期の1人1日平均給水量は、約230リットルである。

## 1世帯の平均水道料金はいくらか。

答 当町の1世帯当たりの平均水道料金は、3,916円となつてている。

## 【各種事業計画について】

問 各種事業の立案方法、また事業計画など、議会に提案しているか。

答 当町で実施している事業は、地方自治法第2条に基づく長期総合計画に沿つて実施している。

長期総合計画の策定にあたつては、「総合計画策定委員会」で素案を立案し、「行政企画委員会」で計画を策定提言。民間から選出された委員会を含めた「総合開発計画審議会」で審議し策定することになつていて。現在の長期総合計画は、平成18年度から27年度までの10年間の基本構想と平成18年度から22年度までの5年間の前期基本計画からなり、10年間の基本構想については、平成18年3月議会で議決いただいている。

基本構想に基づき、現在、平成23年度から27年度までの後期基本計画を作成中であるが、この基本計画は議会の議決を必要としないため、3月議会で報告する予定である。また、各事業計画は、長期総合計画を更に具体化したものであり、「過疎地域自立促進計画」、「辺地総

合整備計画」などがある。両計画については、それぞれ関係法に基づき、議会の議決を経ることになつており、計画策定時や計画内容の大幅な変更の折には議会にご提案をすることとなつており、本年度策定するこれらの計画についても、本議会に提案しているところである。

また、「中長期財政計画」については、「長期総合計画」や「過疎地域自立促進計画」などに照合して、10年間の財政計画を立案するもので

あり、財政状況に応じて毎年見直しを行い、健全な財政運営を行うための指針としているものである。

さらに、町が行うすべての事業は予算として議会に提案し、それぞれの事業内容については、必要に応じてご説明をしているところである。

住民の声をどう反映しているかについては、長期総合計画の策定にあたつては住民や町づくり団体を対象にアンケート調査を行つており、その結果を計画に反映させているところである。

## 問 事業完了後、外部評価を取り入れているか。

答 現在のところ外部評価は取り入れていない。鬼北町監査委員による定期監査や決算審査において、事業や事務手続の審査等を行つていただいているほか、各地区地域審議会委員などに執行状況をご説明し、このことを通して行政評価を行つていただいている。

また、現在進めている長期総合計画後期基本計画の策定において、本事業ごとに課題の整理を行い、員による事業評価を行つた上で、後期基本計画の成果指標を掲げながら、計画を立案する作業に取り組んでいる。

## 問 事業仕分けを、当町でも実施する考え方はないか。

答 当町においては、当初予算の編成に当たり、予算編成方針説明会を開催し、職員に財政状況の厳しさを認識させるとともに、経常経費の削減と支出の重点化を念頭に置き、当初予算を編成するよう周知・徹底している。

また、事務査定と理事者査定においても、常に緊張感を持つて予算査定にあたつては、議会においても予算審議と決算認定の際に、事業内容について十分に審議いただきているものと認識している。

今後においても、まずは行政サイドでの事業について見直し・検証を十分に行なうことが、現時点では最適な方法ではないかと考えている。

## 問 新庁舎の建設計画はないか。

答 「新しい庁舎を」という声が出ていない。鬼北町監査委員による定期監査や決算審査において、事務登録制度に基づく登録有形文化財として登録すべく考えており、去る8月4日に、文化庁の登録文化財調査官が四国地方の事前調査に

来られた折に、日吉地区下鍵山の井谷家、近永地区本町の井谷家とともに本庁舎を調査された。

それによると、建物としては小規模なものではあるが、日本近代建築の正統的な方法を展開した例として、また昭和30年前後の日本の建築界の思想やデザインをよく残している例として注目される建物であり、登録有形文化財としての価値は十分あるということである。

## 問 耐震補強の経費について。

答 現在調査中であり、現段階において必要経費の把握はできていない。ただ、これまでの調査によると相当に良好な地盤の上に立地しており、柱の傾きもなく、建物の振動調査も予測値の範囲内で、50数年前の建物としては大変良好な状態であり、建物の価値を壊すことなく耐震補強が可能であるとの報告を受けている。

## 問 新庁舎の建設計画はないか。

答 「新しい庁舎を」という声があるのは承知しているが、これまで以上に「良いものはさらに磨きをかけて大切にする」、「使えるものはこれからも大事に使っていく」、そういう考え方方が重要であると思う。

庁舎もその一つである。この庁舎は耐震補強も一部必要であるし、また、時代に合わない部分もある

## ◆松田八重子 議員

### 〔庁舎について〕

## 問 文化財としての評価はどうか。

答 庁舎については、現在文化財登録制度に基づく登録有形文化財として登録すべく考えており、去る8月4日に、文化庁の登録文化財調査官が四国地方の事前調査に